

# とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話&FAX(3807)4811



## 自民党 各地で募金活動

謹んで地震・津波による被災者にお見舞い申し上げます。

今回の大地震において、荒川区での対応として帰宅困難者の受け入れを実施し、汐入ふれあい館に35人、南千住駅前ふれあい館に350人等区内で1,400人受け入れました。又、釜石や福島とは交流都市を結んでおり、災害後いち早く被災地に対



ララテラスでの募金活動

して、毛布等の災害救援物資や給水車の提供を致しました。今後も派遣職員の増員など、現地に対するさらなる支援を進めていく方針です。一方、福島の皆様には、新たな原発事故による懸念と、総力戦で沈静化に努めている現状を鑑み、自民党荒川支部は【3月16日より】荒川区内外各地域で救援募金を始めました。皆様から頂きました大切な救援募金は日本赤十字社を通じ被災者支援に活用させていただきます。



区民の義援金を受ける筆者

区議会では、荒川区民の「生命と・財産」を守るために、震災対策に今後なお一層取り組んでまいります。

# 大地震の際に注意すること

## 区内での建物の倒壊は起きなかった

大きな揺れと共に電柱や高い建物に揺れが生じ、倒れてくるのではないかとの恐怖感がありましたが、結果として道路等には亀裂が生じたところがありましたが、建物の倒壊は見られませんでした。やはり、火災による被害の拡大が問題となることと、家具の転倒が起きた家庭が多く報告されました

**家具の転倒防止対策が有効です**

## 携帯電話が通じない事が認識された

日常生活で当たり前に使えた、**携帯電話**。それが使えない。今回の地震で多くの方が実感として認識されたのではないのでしょうか。今後の対応は「携帯電話」が使えないことを前提にして考える必要があります。

一方、メールは一定の効果があったとの報告がありました。

**家族が逢う場所を確認することが大切です**

## 集合住宅ではエレベーターが停止する

地震発生後間もなくして、障害者や高齢者が部屋に行くために、車いすに乗ってエレベーターホールに集まって来たのはよいが、停止しているので身動きが取れない姿があちこちの建物で見られました。ある建物では、活動できる方数名が出動し、車いすを担ぎ部屋まで運ぶ人。又、夕方になりホールが寒くなってきたので、集会室を開放し暖房を入れて、避難者の落ち着くのを待った建物もありました。それぞれの建物には弱者の方が沢山住んでいます。地域の情報を確認するためにも

**各建物の集会室を開放する事も必要と感じました。**

## ボランティアの方はどこでも必要です

自分や家族の安否が確認出来、体力に自信のある方。皆さんの住んでいる建物や周辺で、他人の力を必要としている災害弱者の方が沢山いるという事をこの機会に考えたいものです。

# 23年度 荒川区予算可決

## 自民賛成、共産など反対

荒川区議会第1回定例会が2月15日より3月14日まで開会しました。実質的な予算委員会は2月24日から8日間かけて行なわれ、一般会計915億円に対する内容の審査に入り、各議員から質問を行ない、それに対し、区長始め担当の理事者から答弁がありました。3月8日に委員会での採決が行なわれ、



予算委員会の風景

共産党・正論の会・元気クラブが反対、自民党などが賛成し可決しました。23年度予算では喫緊の課題として、汐入地区における保育園児の受け入れ不足となり緊急措置として、汐入小学校の空き教室に0歳・1歳児の無認可保育所を増設しました。又、老朽化している荒川図書館の開設やそれに付随した、荒川区生まれの吉村昭氏の記念文学館、子供施設等の複合施設の設計費・現在700人が待機する特養ホームの2か所の建設等、高齢者や障害者の福祉対策、保育所を始め様々な子育て支援策、区民の治安を守る防犯・安全対策、将来の人材を養成する教育環境の整備、商店街振興策等々区民生活に密接な予算となっています。

最終日の3月14日の本会議で正式に可決されました。

## 「汐入タワー」竣工

3月20日(日)11時から、都立汐入公園内の水神大橋際で大勢の関係者が見守る中【汐入タワー】が竣工しました。予定されていた式典は震災のため中止となりましたが、パリを拠点に活躍する著名なアーティスト、川俣正さん(パリ国立高等芸術学院教授・東京芸術大学教授)が手掛ける高さ11メートルの塔で、名称は「汐入タワー」。国内では初となる川俣作品となります。当日は川俣さんから挨拶の後、参加者



汐入タワーと筆者

が体験登頂しましたこの後は震災の影響もあり、当分、利用はできなくなります。作業は地元の小学生や募集に応じた地域のボランティアの方々により完成させました。塔の中のスロープを伝って8メートル付近の展望台からスカイツリー等の眺めはいいですよ。

# 明治天皇 白鬚橋に行幸

さねとみ

たいおうそう

## 三条実美の別邸「対鷗荘」を訪ねる

古来より明治にかけての隅田川両岸は風光明媚（ふうこうめいび）な場所として知られ、その美しさは琵琶湖の近江八景と並び称され、歌や絵画にも多く残されています。その中でも、水神大橋から両国にかけては水戸徳川家を始め、多くの公家・大名・財界人の別荘地が点在していました。この中に、幕末から明治にかけて活躍した公家・政治家の三条実美【太政大臣・現在の総理大臣】がいます。彼の別邸「対鷗荘」は現在の白鬚橋のたもとに建っていました。【現在は写真のような石碑があります】この別邸を一躍有名にしたのは、西郷隆盛派と大久



往時の対鷗荘

保利通派に分かれ、明治政府内における一大論争に発展した、明治6年の「征韓論」にあります。【日本国を守るために、朝鮮に出兵し領土を広げ、国を強くするか、出兵などして無駄な予算を使わず、軍備を整えるべきとの意見の対立】三条実美は両派の間の仲裁役として動いていましたが失敗し、「対鷗荘」で療養生活を送ります。この時、明治天皇が見舞いにこの別邸に立ち寄ります。明治天皇は対鷗荘訪問の後、この場所から1キロほどにあった、松平春嶽の別荘に立ち寄ったとされています。対鷗荘は、関東大震災後の都市計画によりこの場所から現在の、京王線・聖蹟桜ヶ丘にあった「連光寺」に移築されますが、現在は取り壊しとなり現存しません。【聖蹟の意味は天皇が立ち寄った場所】



白鬚橋たもとの対鷗荘石碑

